

たばこを吸っていなくても！

肺がん検診を受けましょう！



令和元年8月8日に国立がん研究センターは「2009～10年」にがんと診断された患者全体での「5年後の生存率が66.1%」で前回の調査から0.3ポイント向上したと発表しました。しかし、「**肺がんの5年生存率は40.6%と低い結果**」でした。

※5年生存率とは…がんと診断されてから、5年経過後に生存している割合

肺がんは「男性のがん」また「たばこを吸っている人のがん」とのイメージが強いかもしれませんが、「**女性**」や「**タバコを吸わない人**」にも**多いがん**です。

2017年度の全国の部位別がん死亡者数をみると、

肺がんは 男性で1位、女性で2位 となっています。

	1位	2位	3位	4位	5位
男性	肺	胃	大腸	肝臓	膵臓
女性	大腸	肺	膵臓	胃	乳房
男女計	肺	大腸	胃	膵臓	肝臓



肺がんは早期の段階では自覚症状があまり出ず気づきにくいため、**検診で早く見つけることが重要です。**

国立がん研究センター「がん登録・統計2017」

肺がん検診として

- (1) 一般的には「**胸部単純X線撮影**」が行われていますが、心臓などの臓器や骨の「裏側のがん」は発見されにくいケースもあります。
- (2) 最近では「**胸部CT検診**」も任意型として実施されています。胸部CT検診は肺がんの発見率が胸部単純X線撮影の約10倍で、早期がんが見つかる可能性が高い検査です。

早期で発見するためには、自覚症状がなくても、たばこを吸っていなくても、年に1回、定期的ながん検診を受けることが大切です。



* 島根県厚生農業協同組合連合会（JA島根厚生連）からのコメント*

JA島根厚生連が島根県内で実施する「胸部CT検診」の結果でも 女性、喫煙歴なし、受動喫煙なしの人からも多くの肺がんが見つかっています。 また「早期がん」が多く見つかっています。是非、一度、胸部CT検診をお受けください。